

中央小学校の子どもたちは、「本当にしあわせやな」と感じます。子どもたちは、地域のあたたかな多くの人に見守られ育まれ、励まされて、伸びゆく可能性がキラキラと光っているように見えます。人と人とのつながりが希薄に思われがちな大都会、大阪・ミナミという街の中で、「ぬくもり」を感じられる空堀界隈の人や街並みとあふれあひながら、子どもたちは、毎日、元氣いっぱいです。

中央小学校では、九月末には運動会が、十一月には「わいわい祭り」が催され、保護者と学校と地域が一つになって子どもたちの成長のために活動していただいております。

さらに、「学校週五日制」に伴い、毎月第四土曜日に「サタデー・フリータイム（通称サタフリ）」が実施されています。これは、PTAと学校が主体で学校施設を開放し、子どもたちに安全な活動の場を提供することを目的としているのですが、ここでも地域の皆さまの協力を得ています。むかし遊びや囲碁将棋を教えていただいたりと、地域の皆さまが子どもたちの成長を助けてくださっています。

でも、もつともつと地域の皆さまに中央小学校の子どもたちと関わっていただき、顔見知りになっていただきたいのです。今の子どもたちを取り巻く環境は激変し、犯罪も増加の一途で

す。その一因には「冷たい社会、冷めた人間関係」があるのではないのでしょうか。そのような現状の中、空堀界隈に息づいている「ぬくもり」や人の「体温」を感じられる街で、子どもたちを育てていけることは、保護者にとって何よりの幸せです。

いまの時代、明るい明日を担う子どもたちの成長は、保護者や学校だけで計られるものではなく、地域の皆さまの協力が不可欠であると思えます。これからは中央小学校の子どもたちをあたたかく見守ってくださいます。よろしくお願ひいたします。

大阪市立中央小学校
PTA会長 伊藤 隆行

中央小学校は平成3年に「桃谷」「桃園」「東平」「金甌」の4つの小学校が統合されてきました。現在583人の児童が元氣いっぱい通っています。

からほり新聞

あたたかな多くの人に 見守られて

第3号
(2003.7.21)

「空堀界隈をご散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋にゴミは似合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。



からほり伝言板

はいからほり
「懐かしい夜店とお地藏さん」
8月23日(土)午後5時からはいからほり商店街にてこの夏 夜店が復活!!
当日のボランティアスタッフも募集(6761-2862青山)

かみなり亭寄席
奇数月の第2土曜日午後6時30分より。会場:葉業年金会館。出演:笑福亭一門ほか。問い合わせ:06-6768-3549

からほりまちアート
10月25日・26日の土日曜日10時から16時、空堀のあちこちで様々なジャンルのアート作品を空堀の町並みと調和させて展示するアート・イベント。展示する作品の募集もしている。問い合わせ:6761-2905 (FAX)「からほりまちアート(有馬)」

りまちアート(有馬)」

中央区盆踊り大会
8月1日から3日、中央小学校となりの瓦屋町グランドにて開催。素晴らしい踊り手に見入るのもよし、輪に入って踊るのもよし、出店で遊ぶのもよし。

ラジオ体操
この夏ラジオ体操で1日をスタートさせてみませんか。
(金甌地区)7/20~8/3
(桃谷・桃園・東平地区)8/1~8/10

櫓ギャラリー
www.comint.ne.jp/kaede/
7月29日(火)~8月8日(金)
「赤塚りえ子展」インスタレーション
8月9日(土)~9月8日(月)
夏期休廊
9月9日(火)~14日(日)
「竹紙に描く一山田依理子展」

〈平面・竹紙〉
9月16日(火)~27日(土)
「滴のような滴としての作品たち」清東節江(造形)・平田尚加(写真)
9月30日(火)~10月5日(日)
「Tabi-no-Emaki〈平面・墨・顔料アクリル等〉」

地域のイベント情報・お知らせは、どしどし「からほり新聞」までお寄せください。無料掲載します!

高齢者外出介助の会主催
第11回「みんなで集うコンサート」
10月12日(日)天満センターにて、開演13:30、入場無料。

「童謡・唱歌を歌う会」
10月6日(月)大阪ガスビル3Fホール。開演13:30、入場無料。

詳しくは「高齢者外出介助の会」までお問い合わせください。

☆編集後記
◆「朝晩空堀を歩いて学校に行つてました。事務所の行き帰りに懐かしさがホワット私を包んでくれます。(永井) ◆からほり入門中!小自慢、昔ばなし・おもしろネタありませんか?ささいな事◎お知恵拝借承り中!。(八田) ◆坂や寺や緑が多く「ここが大阪?」と思うくらい静寂な上町台地が大好きです。京都や奈良だけが歴史の町ではありませぬよ!(西俣) ◆もうすぐ関西ならではの地藏の季節ですね。町内ごの地藏盆ネタないでしょうか?取材行きます!(山本) ◆木造、路地、多い隈:「この町はにゃんこ銀座か!」つてくらしい、彼らを目撃する。空堀が好きな理由のひとつ(高田) ◆最近参加させていたいただきありがとうございます。(嶋)

特定非営利活動法人
高齢者外出介助の会とは?
お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。
①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
②在宅支援(家の修理、家具の移動)
③入院支援(入退院時同行、洗濯、買い物など)
④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、絵手紙くらぶなど)
⑤歩いて学ぶ大阪の歴史(学び&散策)
⑥車椅子、シニアカー貸出
⑦「からほり新聞」制作
お気軽にお問い合わせください。
大阪市中央区谷町6丁目3-10
「うまうま」さん、「すかんぼ」さんのビル3F
TEL&FAX 06-6764-4002
月・水・金(10:30~15:00)、火(13:00~15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: www9.ocn.ne.jp/~ode-kake/

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださるお店も大募集。
「からほり新聞に参加したいな」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。

あなたが被害にあわないために

8/10 日 **無料 住宅セミナー** (13:30~14:30) **無料 個別相談会** (14:30~15:30)

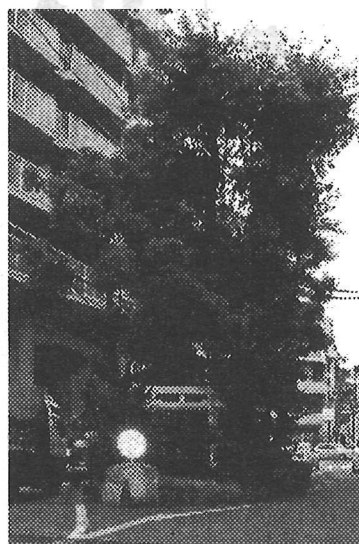
テーマ「訪問販売被害にあわないために」
(開催場所)大阪市立 住まい情報センター 5階研修室 (定員)50名(会場の都合により申込先着順)

建築士:敷地や建物に関する相談
司法書士:登記相談
弁護士:法律相談
税理士:相続その他の税務相談

(主催/お問い合わせ/お申し込み)特定非営利活動法人日本住宅管理協会(吹田市広芝町)TEL06-6190-6050 後援:大阪NPOネットワーク

魅力いっぱいの上町台地を歩く

上町台地は歴史の宝庫、大阪発見の舞台でもある

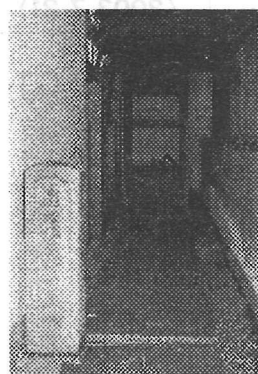


楠玉社

上町台地は、古くから歴史の要衝でした。わたしはボランティアで大阪の町案内をしています。魅力いっぱいの上町台地を歩きながらご案内いたしましょう。近鉄上本町駅から北へ歩くと城南寺町です。龍淵寺(りゅうえんじ)には、天保の乱(一八七三年)で有名な大塩平八郎の墓、秋篠昭足の墓があります。ここから更に北へ向かって歩いて最初に突き当たる東西の道を左に折れると、道のど真ん中を塞ぐように立つ大きな楠木が

見えます。この木の下にはほこらがあり、「楠玉社」として大切に祭られています。これは、かつてこの地にあった本照寺が移転し、その境内にあった楠を切れば縁起が悪いと言われ残されたものなのです。現在、この道は通称「楠木通」と言う名で親しまれています。戦時中は軍事道路として使う計画もありました。大阪城公園にあった軍需工場と此花区桜島のお頭までを結ぶ道として整備される予定だったのですが、その前に終戦をむかえ一度も軍用トラックが走ることはありませんでした。何気なく通っている道にも平和の尊さを教えられます。

楠木を後にして谷町筋を左折するとすぐに、



建物にはさまれたお墓への入口

歌舞伎や浄瑠璃の戯曲で有名な近松門左衛門の墓があります。マンションとガソリンスタンドの隙間の小さな空間にひっそりとあるのですが、「心中天網島」や「曾根崎心中」などの名作を多数残し、「日本のシェークスピア」と称される文豪の墓としてはお粗末すぎる扱いの様な気がします。またこの辺りは、太閤秀吉が「寺町」を設けた名残りで、今も多くのお寺が谷町筋の両側に林立しています。ここで、よく観察してみると、東側は土塀の古い寺なのに、西側はコンクリート作りの近代的なお寺が並んでいることに気がきます。そのわけは、道路の拡張工事です。江戸時代までの谷町筋は約6m程度の道幅で、現在の東側に沿うように伸びていました。やがて



近松門左衛門のお墓

昭和四五年の万博の時、拡張工事で西へ約三〇m拡張しました。そのため東側の寺は昔からの造りのままで、西側の寺は移転新築したため建物が新しいというわけです。道や寺の作りからもこの界隈の歴史が読みとれるのです。谷町筋を横切ってさらに西へ向かうと、「地藏坂」、そして高津神社を抜け松屋町へと出ます。この続きはまた次回に歩くことにしましょう。上町台地は歴史の宝庫です。限られた紙面では書き切れませんが、是非みなさんも、からほり新聞を手にこの界隈を歩いてみてください。きつと、歴史の息吹を感じることもできます。それは、私たちの大阪の町の、新たな発見でもあるのです。

(大阪案内人 西俣 裕)

けら子の介助日記

出介助の会事務局長 永井佳子

家庭から社会への意識が広まる ワタシらから頑張らんと!

先頃、腹立たしいことがありました。「榛原にあるお墓にお参りしたいから登録したい」と、80歳代の女性から電話がありました。早速引き受け、訪ねる日を担当ボランティアと相談して連絡をいれようと翌日事務所に入ると、留守番電話に断りの電話が入っていました。

気になったので再度問い合わせをしました。ご本人が生まれ、お墓へ行く道順や2年前に一人で行ったことなど話されたので、どうしてキャンセルされるのかを聞きました。すると「この会に入り、ボランティアさんにお墓までついていってからおうと思っ」と息子に話をしましたら「もう自分がお墓に入る年をしていくのに、わざわざお参りに行くことはない」と言うので

すと。

お年寄りが外出を言い出されると家族から反対されることも度々です。数年前にも、登録を希望され訪ねた時、やはり「娘からそんな会に入っても後で20万も30万も取られるも知らんで。年寄りは家にいてたらいいねん。外へ出かけるなんて考えるのは贅沢や」といわれたと話されたのです。

家族は、他人に頼んでまで年寄りが出かけたなら、日ごろ自分たちがほったらかしている近所の目を意識されるのでしょうか? 介護は家族から社会へと時代の流れは変わっているのに、意識がなかなか変わらないのです。このような話を聞くたび、関わっている私たちが、お年寄りの代弁者になり、変えていかねばと思います。

家族、子ども、ご近所つき合い

新入園・入学を迎えた 子どもを理解するために

4月に、入園・入学を迎え、新しい集団生活を始めた子どもたちも、この時期になれば当初の緊張感もほぐれ、落ち着き始める頃です。しかし、一方では、今まで頑張っていた疲れが、頭痛、腹痛、発熱などのかたちで体に出てくる時期でもあります。

子どもたちは様々な個性をもって、集団生活を始めます。入学時には、その年齢なりの、それに耐える社会性が身に付いているものですが、中には集団に馴染みにくい子どもがいたり、過度の緊張を感じていたり、と色々です。子どもの心はとも柔らかく、その分傷つきやすいものなのです。大人から見れば些細なこと、案外大きな痛手になっ

てしまうこともあります。友だちと喧嘩をした、自分の言いたかったことが先生にうまく伝えられなかった等々。

とりわけ、頑張り屋さんで緊張する子どもにはこんな時期こそ配慮が必要です。これといって体調に問題がないのに、なんだか元気がない、イライラしている、いつもと様子が違う。そんな時、親として励ましたくなるものですが、「頑張りなさい」と激励しすぎず、むしろ、お母さんと二人で過ごす時間や、家族団らんの時間を増やし、話しやすい雰囲気作り、安心感を与えてあげてを大事にしてゆきたいものです。

「こども心身医療研究所」
カウンセラー 中村慶子

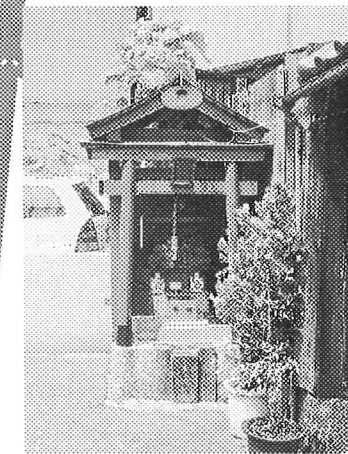
「こどもは毎週、「人のふれあい」について考えてゆきます。

地域に根ざした真心のケアがモットーです。

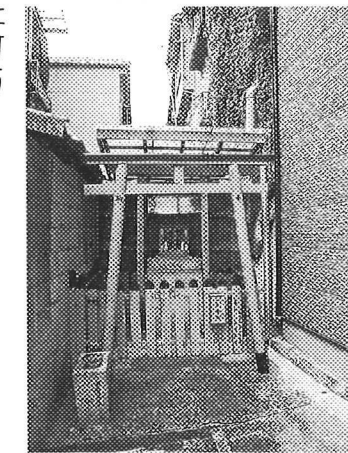
<p>介護のことなら</p> <p>「ケアセンターはる」</p> <p>中央区上本町西3-3-24 ☎6767-1131</p>	<p>ライフ・ステージ(寝具の白石)</p> <p>家庭的な雰囲気のあるサービス</p> <p>「サービスセンター「陽だまり」</p> <p>中央区上本町西1-3-17 ☎6767-1300</p>
-------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

か ら ほ り の 界 隈 お 散 歩 M A P

～ 其の3 『からほりのお地蔵さん』の巻～



“街角地蔵”正面の鳥居と側面の塀が真っ赤で目立つ



“谷間地蔵”坂のまち空堀らしく、上手に配置されている

空堀はお地蔵さんの多いまちです。界限には、仏さんやお稲荷さん、蛇さん(何っていいばいのでしょ?)などを祀った地蔵堂があちこちに見られます。ざっと数えただけでも、三十程度はあります。京都ほどではなくても、人口一人辺りに換算すると、すごい数字になるでしょう。

分布図を見るとかなりの偏りがあります。きっと、昔は、もともとたくさんあったのでしょ。建物の更新の際に取り壊されたり、子どもが少なくなったことで夏の風物詩である地蔵盆が行われなくなったために減っているのでしょうか。実際のところは、昔を知るお年寄りの方にお尋ねしないといけません。でも、写真のように色々なパターンで鎮座されているお地蔵さんの姿を見ると、その辺りの事情が想像されます。

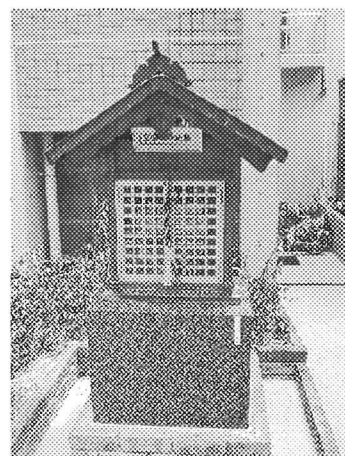
遠くからでもよく目立つ『街角地蔵』は、ドッシリとした土台、真っ赤な鳥居、真っ赤なお堂に、照明とフルセットで、立地環境もバツグンです。一方、建物と建物の間に挟まれた『谷

間地蔵』や建物に一体的に取り込まれた『ビルトイン地蔵』は都心部の高価な土地が有効利用されています。大敷地の中に専用スペースが確保された『広場地蔵』や『空堀延命地蔵』はまちの更新にあわせて、更新、整備された立派なものです。お地蔵は神仏に関わるものですから、敬虔(けいけん)な感じのするのが普通かもしれません。何ともしえない親しみやすさがあり、なんだかホッとします。決して立派ではない分、余計に生活の中にとけ込んだ感じがします。

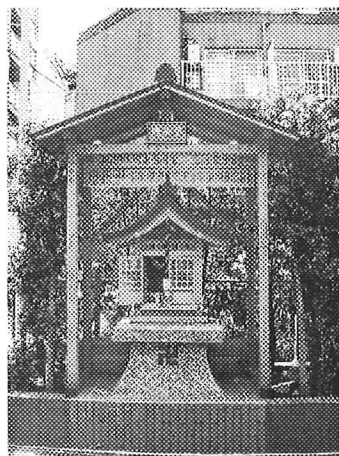
ここに挙げたお地蔵さんは、ほんの一例です。皆さんも散歩の中でお気に入りの地蔵さんを見つけて、ネーミングしてみたいかがでしょう。

編集部では、このようなお散歩ネタを探しています。皆さんの楽しみ方、教えて下さい。

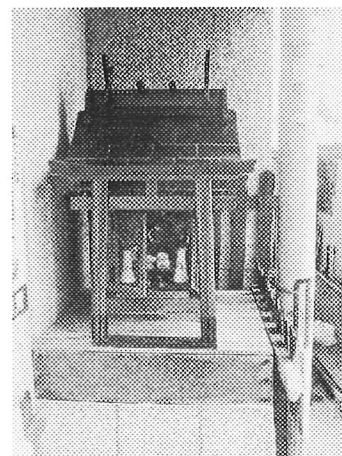
山本一馬



“空堀延命地蔵”表札付で、マンションの一角に鎮座



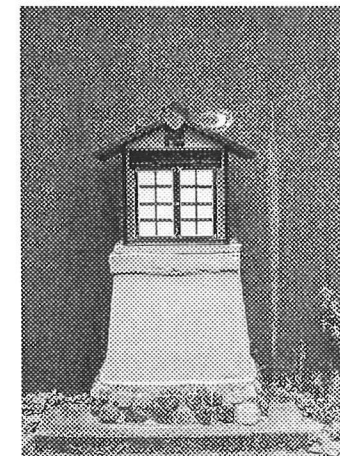
“広場地蔵”立派に整備された企業の広場に鎮座



“ビルトイン地蔵”このために設えられた省スペース



“レンガ地蔵”軒先の植栽で縁取られた和洋折衷型



“壁地蔵”鳥居はないが、黒い壁面に白い土台が対照的